

「保険で良い歯科医療を」全国連絡会

第 13 回総会への報告

2014 年 10 月 25 日

代表世話人 江原 雅博

前回総会は、前身である「保険で良い入れ歯を」連絡会結成 20 周年という節目の年でもあり、保険で良い歯科医療の実現を求める運動の発展として、「保険で良い入れ歯を」の自治体意見書が過半数を超えたこと、94 年の義歯点数の 40%引き上げの実現や、2000 年に「保険で良い歯科医療を」全国連絡会へ改称、発展し、地方連絡会組織の立ち上げと自治体意見書運動、市民向け取り組みが大きく前進していることなどの成果と教訓を確認した。そして、今後の運動方針として、幅広い市民、団体が参加する運動の具体化、次回診療報酬改定に向けこれまでにない規模で国会請願署名に取り組むことなどを確認した。

本総会は、①この間の全国連絡会および各地での活動を交流する、②今後 2 年間の活動方針を確認する、③地域連絡会の結成の具体化、④新しい役員の選出、を目的に開催する。

以下、前回総会（2012 年 11 月 10 日）以降の主な活動の報告、今後 2 年間の主な活動方針について提案する。

I. 前回総会以降の主な活動

各地の活動については、後の討論で交流することとし、以下は全国連絡会の活動を中心に紹介する。

(1) 患者署名で過去最高の 34 万 6 千筆超を集約

① 3 月末から 12 月末の約 9 ヶ月間、(ア)窓口負担割合の軽減、(イ)保険のきく範囲の拡大の 2 項目で、50 万筆を目標に取り組み、過去最高となる 346,260 筆を集約した。

② 13 年 6 月 13 日、全国連絡会として、2 項目での厚生労働省や各党国会議員への要請、懇談を実施した。

③ 13 年 11 月 18 日、歯科医療費拡大や患者窓口負担軽減、保険給付拡大などを求めて「保険で良い歯科医療の実現を求める国会内集会」を開催し、全国から医師、歯科医師、歯科技工、歯科衛生士などの医療従事者、市民ら 130 人超が参加した。

(2) 「“命を守る” 保険で良い歯科医療の実現を求める 10.27 決起集会」

13 年 10 月 27 日、「“命を守る” 保険で良い歯科医療の実現を求める 10.27 決起集会」（主催は実行委員会）を開催し、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士などの歯科医療関係者 340 人が参加した。

(3) 「保険で良い歯科医療の実現を求める」自治体意見書採択運動の取り組み

前回総会時点（12 年 10 月末時点）は、11 道県議会 561 市区町村議会（32.1%）だったが、現在（14 年 9 月末時点）は、594 市区町村議会（34.1%）に前進した。この間、大分で全自治体での採択、北海道では新たに 11 自治体で採択、茨城では 6 自治体で採択し県内の過半数を達成。埼玉・新座市では市民の運動によって県内初の採択となった。

(4) 歯科技工問題での取り組み

「歯科技工問題を考える懇談会」の開催、厚労省への要請、懇談。

(5) 「市民アンケート」の実施

国民の歯科医療についての意識動向を掌握するとともに、その結果を広く社会的にアピールし、今後の歯科医療改善運動に役立てることを目的に、7月から9月末を期日に「市民アンケート」に取り組んだ。7,194人からの回答を得た(女性58.7%、男性41.3%)。4月からの消費税増税で「受診を控えようと思っている」との回答は13.2%。歯科治療をせずに「そのまま放置しているところがある」は29.0%あり、「ある」と回答した人のうち「時間がない」59.3%、「治療が苦手」31.0%、「費用が心配」が26.5%だった。政府が進めようとしている患者負担増計画など、「保険のきかない歯科治療を増やすことについて」は、92.7%が反対と回答した。これらの調査結果を今後の歯科医療改善運動に生かしていく。

(6) その他

- ① 「イレバデー・イイハデー」キャンペーンの取り組み、日本高齢者大会歯科分科会への協力
- ② 13年参議院選挙での政党アンケートの実施
- ③ 団体訪問の実施

II. 今後の主な運動方針

この間の成果と教訓をふまえ、医療を受ける側と提供する側が、一致した要求にもとづき、幅広い市民、団体が参加する運動の具体化をはかる。

(1) 国会請願署名をこれまでにない規模で取り組む。

この間、07年26万9千筆(紹介議員:衆43、参41)、09年23万筆(紹介議員:衆41、参13)、11年29万3千筆(紹介議員:衆31、参10)、13年34万6千筆(紹介議員:衆18、参19)と総計114万筆超を集約し、のべ216人の衆参国会議員の紹介で国会へ提出した。いずれも厚生労働委員会で審議未了となったが、歯科診療報酬の改善、保険給付の一部拡大などを勝ち取った。世論を動かし、国を動かす大きなツールの1つであり、この間取り組んできた歯科国会請願署名の成果をふまえ、これまでに規模での国会請願署名にとりくむ。

- ① 広範な国民と医療提供者が一致できる幅広い要求項目を作成する。
- ② 目標、具体的手立てを明確にすることを今後世話人会や各団体、連絡会などでよく議論をおこない、従来の取り組みを超えた運動にする。

(2) 歯科技工問題を国会、マスコミ、市民に広く、アピールしていく。

「歯科技工問題を考える懇談会」(10/8)や大阪、兵庫などでの取り組みをふまえた運動を継続して取り組む。

- ① 全国連絡会として、緊急要望案をまとめる。
- ② 厚生労働省への実態調査の実施を要望していく。
- ③ 第2弾の企画を検討する(時期、内容は別途検討)

(3) 「イレバデーからイイハデー」キャンペーン月間

取り組みを全都道府県で取り組めるよう年明けから推進する。

(3) 自治体意見書採択運動の過半数をめざして

大分県や朝霞市での経験にも学びながら、全国過半数の自治体での採決をめざしつつ、

- ①10月の決起集会にむけて、(ア)採択ゼロ県をなくす、(イ)過半数の都道府県で過半数自治体をめざす、などの目標を明確にして取り組む。

- ②当面、4月に行われる統一地方選挙に向けた取り組みを重視し、地方議会、政党、議員、候補者に働きかける。

(4) 他団体や市民との共同を広げる

- ①これらの活動をすすめるうえでは、全国団体に参加する保団連、全日本民医連、医療福祉生協連などの各県、各地での連携や他団体との共同を広げるとともに、幅広い市民、患者さんなどを巻き込んだ活動を展開する。

- ②その点では、市民や他団体がこの運動に取り組めるよう、分かり易い問題提起、宣伝物の発行などを工夫する。

(5) 各県連絡会づくり

当面の活動の大きな柱の1つとして、新たな連絡会づくりを位置づける。当面、空白ブロックの北海道、東北、四国などでの結成を目指す。また、具体的に検討している岩手、宮城、岐阜、京都などに個別に働きかける。

(6) 日本高齢者大会 in 和歌山（9月15日・火～9月16日・水、予定）での歯科分科会への協力

(7) 全国連絡会の活動強化。

- ①他団体にも働きかけ、全国連絡会の加盟団体などを広げる。

- ②世話人会を2ヶ月を1度をめどに、定期的を開催する。また、各地の連絡会代表が参加できる拡大世話人会を電話会議などで開催するとともに、集まった会議も開催する。また、事務局団体会議を提起的に開催する。

- ③諸活動を推進するうえでは、各都道府県、事業所単位で組織をもつ、保団連、全日本民医連、医療福祉生協連の全国団体がイニシアチブを発揮し、具体化し推進していく。そのための事務局会議も定期的を開催する。

- ④会費納入など、財政運営の健全化にむけて改善をはかる。

以上